

大学院へ行こう！

予防歯科学分野 野々村 絢 子

予防歯科学分野大学院3年の野々村絢子です。大学院生活も残すところあとわずか、日々研究、臨床に奮闘し、充実した日々を送っています。

この度、「大学院へ行こう」というテーマを頂きましたが、歯科医師として働くにあたり、大学院へ進学するかしないかは、今後の歯科医師としての生き方に大きく関わってきます。特に、女性の方は大学院を選択した場合、4年間研究生活を続けるわけですから、結婚、出産などの人生プランを考えた時に、この4年間をどのように過ごすかどうかは、選択次第で大きく変わってきます。まだ大学院を卒業していない私が言うのもおこがましいかもしれませんが、男女問わず歯科医師として長く働く気持ちがあるならば、大学院へ進学した方が良いと思います。特に将来、大学や行政等で働くことを視野に入れている方は、なおのことです。

私が思う、大学院進学の特長を3つ述べま

す。

1つめは、論理的な考察力を養うことができる点です。歯科医師として臨床現場で働いていると、編み出された新たな治療法を取捨選択し、吸収していかなければなりません。その際、どれを信頼するかを判断する時に大事になってくるのが論理的な考察力です。大学院では、研究するにあたり、統計学的にも問題なく、他人から信頼される研究のデザインの作り方を勉強します。その経験が、多くの情報の評価に役立つと思います。

2つめは、人前で講演することに慣れ、物怖じしなくなる点です。大学院在学中に自分の研究発表をする機会が何回かあります。その時にどのようなスライドを準備したらいいか、どのように話して質疑応答すればいいかを学ぶことができます。多くの先生は、歯科医院で勤務すると思いますが、そこでも講演する機会はたくさんあります。大学院でプレゼンテーションのやり方を勉強



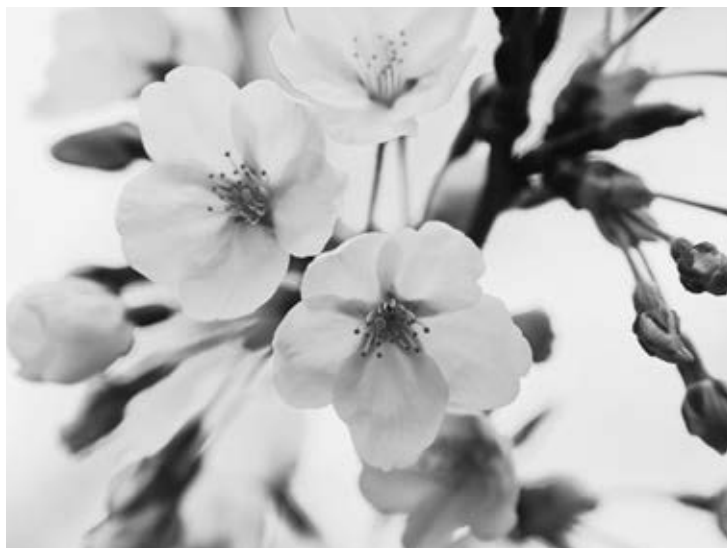
していれば、自信を持って話をする事が可能です。

3つめのメリットは博士号を取得できることだと思います。博士号の捉え方は人様々ですが、博士号を持っている先生は、科学的、論理的思考を学んだ方だと評価できると思います。また、海外においても博士号の肩書きは、意義のあるものだと考えられます。

これまで3つのメリットを挙げてみましたが、大学院へ行くと診療技術が鍛えられないのではないかと心配される方もいらっしゃるかもしれませんが、確かに、診る患者の数は開業医に比べて少ないかもしれませんが、大学院在学中にも外来の他、開業医等での診療を経験することができますので、技術の習得は可能です。診療科によって違いますが、大学でしか経験できない症例もありま

すし、様々な治療法を学ぶこともできます。また、自分の診療内容や症例についても指導医の先生からフィードバックを受けることができます。さらに、大学院の同期にはあらゆる診療科の仲間がおり、大学院卒業後も治療で困ったことがあれば相談することができます。

最後に、私は女性でも生涯歯科医師として働く方はぜひ大学院へ進学してもらいたいと思います。意外と4年間はあっという間に終わります。大学院を卒業すると、その後の進路の可能性は広がります。私の先輩には大学院卒業後海外へ飛び、国際機関でキャリアを積んでいる先生もいれば、大学院在学中に結婚し、卒業後に出産、その後、復帰された先生もおられます。色々な人生がありますが、少しでも大学院を選択肢に入れているならば、ぜひ大学院へ進みましょう。



大学院に行こう

歯周診断・再建学分野 干川 絵美

歯周診断・再建学分野大学院1年目の干川絵美です。今回『大学院へ行こう』というテーマで原稿依頼を頂きました。私はまだ院1年目なので、何を書こうか迷うところですが、私が大学院へ行こうと思った理由や大学院へ進学してからの3ヵ月間について紹介させていただきます。

私は、学部を卒業後、新潟大学医歯学総合病院の歯科総合診療部というところで1年間研修させて頂きました。私が、大学院へ進学したいと思ったのは、学生の頃の臨床実習がきっかけでした。一人の先生と数人の学生で、一人の患者さんの初診から基本治療終了までの治療を行っていく歯周アドバンスで、歯周治療や治療方針の立て方に興味を持ち、もっと先生方から教わりたいと思い、大学院を考えるようになりました。しかし、一つ悩みだったのが、「研究ってどんな感じなのか？」でした。研修医になってから、既に研究をしている同期が楽しそうに研究の話をしており、聞いて

いるうちに自分も研究をしてみたいと思うようになりました。また、先輩方からお話を聞き、「外へ出てから集中して研究するのは難しいし、実際にやってみないとどういうものかわからないだろう」と思うようになりました。「この研究をやりたい!」という考えは正直まとまっていませんでしたが、漠然と研究にチャレンジしてみたいのと歯科治療についてももっと学びたいという思いから大学院進学を決めました。

ここからは、実際に大学院へ進学してからの3ヵ月間について紹介したいと思います。私は、歯周診断・再建学分野に所属していますが、研究は生体組織再生工学分野でやらせて頂いています。歯周科では、外来やアルバイト先で、先生方から学ぶことがたくさんあります。診療手技に対するアドバイスはもちろんのこと、患者さんに対する説明一つ一つにおいても、一緒に聞いている私が「なるほど!」「説明がわかりやすい!」と



勉強になることばかりです。また、私と同時に歯周科に進学した者が、私を含め9人います。9人は多いとよく言われますが、同期からは臨床や異なる研究分野の話も聞けて、良い刺激を受けています。研究では、初めての細胞培養で先生方に迷惑ばかりかけていますが、徐々に慣れてきて、知らないことを学ぶのが楽しい時期です。論文や教科書で知らないことを調べたり、先生方に教えて頂いたりで、勉強になる毎日です。細胞が相手で悩まされることもありますが、うまくいったとき

の喜びもあり、毎日奮闘しています。

まだ3ヵ月しか経っていないので、大学院の良さ悪しは伝えられませんが、私は色々な先生方と関わることができ、多くのことを教えて頂き、大学院に進んで良かったと感じています。もし、卒業後の進路で悩んでいる方がいらっしゃいましたら、大学院へ行った先生方にお話を聞いて、大学院進学へ興味を持っていただけると嬉しく思います。



大学院に行こう

医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻 高橋 駿 介

初めまして。大学院口腔生命福祉専攻修士課程2年の高橋駿介と申します。この私のページでは、“大学院に行こう”ということで、これまでを振り返って福祉分野を専攻する私が考える“大学院の特徴”や“大学院に進学してよかったと思う点”を中心にお話を進めていきたいと思えます。この文章が皆さんの大学院進学への大きな参考となれば幸いです。

まず、大学院と言ったら皆さんが頭に思い浮かべるのが、論文研究ではないかと思えます。論文研究を行うことは、物事を考え行動する力を養う大きな助けになる他、自らの専門性を自覚し、目標や理念を明確にした上で考えて行動する大きな財産になると思えます。

また、大学院の講義では実際に学外の講習会や外部の施設を訪ねる他、外部の講師等の専門家の方々に実際にお話を聞く機会もあります。もちろん、職場にて特定の分野に携わるほど、深く知ることはできないかもしれませんが、その分幅広い分野についてのことを知ることができ、一つの物事に対しても多様な観点からとらえる大きな手助けになっていると私自身感じております。

これらのことから、大学院進学の良い点について述べてきました。しかし、その一方で大学院進学の少ない短所の一つとして、「知識を深めること

ができて、現場で経験を積むことができない」といった点もあると思えます。しかし、大学院ではそうした短所についても解消する柔軟な教育支援体制が整っています。

ここで、私の話をさせていただきますと、私はこの四月からは社会人大学院生として大学院の学業に励む傍ら、新潟県の職員として障がい者施設にて勤務にあたっています。このように、新潟大学の大学院では年度が替わる際に「大学院生→社会人大学院生」と切り替えができるのであります。もちろん、職務と勉学を両立することは大変ではありますが、一人の社会福祉士として自らの専門性やレベルを本格的に高めることができる二年間であると思っています。

これらのことから、大学院の特徴や私の感じたことを述べてきました。自分の興味のある物事について学ぶことができるだけでなく、現場で経験を積むことができているこの期間は密度の濃いものであり、やりがいを感じることであります。これから大学院進学を少しでも考えている方は是非、進学を検討されてはいかがでしょうか？ ...ということをお願いいたします。ご清覧ありがとうございました。